

令和 8 年 1 月 2 0 日

# 交 通 事 故 概 況

令和 7 年 12 月 末 計 上 数 ( 確 定 数 )

警 察 本 部 交 通 部 交 通 企 画 課

## 北海道の交通事故概況（12月末計上数（確定数））

## 1 令和7年12月末の交通事故発生状況

区分\内容	12月中	前年比	12月末	前年比
発生件数（件）	948	112	8,475	-268
死者数（人）	13	0	129	25
傷者数（人）	1,105	116	9,827	-470

[過去10年、12月中12月末の推移]

区分\年 別	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	過去平均 10か年 5か年		R7年
12月中死者数	9	14	11	12	12	18	10	6	12	13	12	12	13
年間死者数	177	158	148	141	152	144	120	115	131	104	139	123	129

都道府県別（12月中）

順位	1	2	3	4
都道府県名	埼玉	神奈川	千葉	北海道 愛知
死者数	22	20	17	13

都道府県別（12月末）

順位	1	2	3	4	5
都道府県名	神奈川	東京	北海道	埼玉	千葉
死者数	139	134	129	125	122

## 2 交通死亡事故の発生状況（主なもの）

## (1) 12月中の死亡事故（死者13人）

- 事故類型別：正面衝突が5人（38.5%）、人対車両が4人（30.8%）
- 道路別：国道が7人（53.8%）、市町村道が4人（30.8%）、
- 地形・道路形状別：非市街地カーブが4人（30.8%）、市街地交差点、市街地直線が各々3人（23.1%）
- 発生時間別：6～8時、10～12時が各々3人（23.1%）
- 第一当事者年齢別（第一当事者原付以上）：高齢運転者、40歳代の運転者による死者が各々3人（23.1%）
- 第一当事者違反別（第一当事者原付以上）：前方不注意が5人（38.5%）、操作不適が3人（23.1%）
- 死者年齢別：高齢者の死者が7人（53.8%）、40歳代、50歳代の死者が各々2人（15.4%）

## (2) 12月末の死亡事故（死者129人）

- 事故類型別：
  - ・ 車両単独が43人33.3%（うち操作不適が19人44.2%、前方不注意が16人37.2%）
  - ・ 人対車両が34人26.4%（うち前方不注意が15人44.1%、歩行者妨害が8人23.5%）
  - ・ 正面衝突が27人20.9%（うち操作不適11人40.7%、前方不注意が10人37.0%）
- 道路別：
  - ・ 国道が54人41.9%（うち正面衝突が20人37.0%、車両単独が15人27.8%）
  - ・ 市町村道が34人26.4%（うち人対車両が13人38.2%、車両単独が8人23.5%）
  - ・ 道道が30人23.3%（うち車両単独が10人33.3%、人対車両が9人30.0%）
- 地形・道路形状別：
  - ・ 市街地交差点が34人26.4%（うち人対車両が16人47.1%、自転車対車が6人17.6%）
  - ・ 市街地直線が28人21.7%（うち人対車両、車両単独が各々10人35.7%）
- 発生時間別：
  - ・ 8～10時が18人14.0%（うち出会い頭5人27.8%、正面衝突が4人22.2%）
  - ・ 16～18時が17人13.2%（うち人対車両が6人35.3%、車両単独が4人23.5%）
- 第一当事者年齢別（第一当事者原付以上）：
  - ・ 高齢運転者による死者が43人33.3%（うち車両単独20人46.5%、正面衝突が11人25.6%）
  - ・ 50歳代運転者による死者が26人20.2%（うち車両単独が7人26.9%、人対車両が6人23.1%）
- 第一当事者違反別（第一当事者原付以上）：
  - ・ 前方不注意が44人34.1%（うち車両単独が16人36.4%、人対車両が15人34.1%）
  - ・ 操作不適が31人24.0%（うち車両単独が19人61.3%、正面衝突が11人35.5%）
- 死者年齢別：
  - ・ 高齢者の死者が71人55.0%（うち人対車両が24人33.8%、車両単独が22人31.0%）
  - ・ 50歳代の死者が19人14.7%（うち車両単独が8人42.1%、正面衝突が6人31.6%）
- シートベルト非着用者：
  - 自動車（二輪を除く）乗車中の死者63人中、シートベルト非着用者は25人（39.7%）であり、そのうち18人（72.0%）はシートベルトをしていれば助かった可能性が高い。

(3) 方面別発生状況

12月中の死者数は札幌方面、旭川方面が各々4人(30.8%)、釧路方面、北見方面が各々2人(15.4%)、函館方面1人(7.7%)となっている。

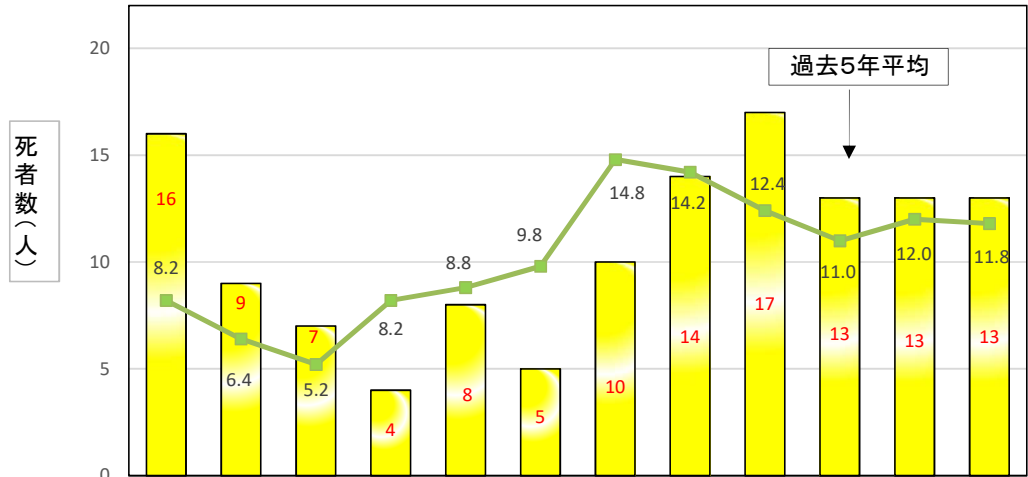
12月末の死者数は札幌方面が63人(48.8%)、釧路方面が25人(19.4%)、旭川方面、北見方面が各々17人(13.2%)、函館方面が7人(5.4%)となっている。

方面別\区分		発生件数	前年比	死者数	前年比	傷者数	前年比
12月中	全道	948	112	13		1,105	116
	札幌方面	723	118	4		846	127
	函館方面	71	14	1		88	24
	旭川方面	92		4	2	96	-17
	釧路方面	42	-25	2	-3	51	-23
	北見方面	20	5	2	1	24	5
方面別\区分		発生件数	前年比	死者数	前年比	傷者数	前年比
12月末	全道	8,475	-268	129	25	9,827	-470
	札幌方面	6,216	-224	63	12	7,201	-417
	函館方面	620	70	7	2	761	97
	旭川方面	750	-13	17	1	851	-49
	釧路方面	663	-108	25	1	757	-92
	北見方面	226	7	17	9	257	-9

(4) 月別発生状況の推移

12月中の死者数は13人で過去5年平均11.8人を上回っている。

12月末の死者数は129人で過去5年平均122.8人を上回っている。



区分\月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和7年	16	9	7	4	8	5	10	14	17	13	13	13	129
年間累計	16	25	32	36	44	49	59	73	90	103	116	129	
過去5年平均	8.2	6.4	5.2	8.2	8.8	9.8	14.8	14.2	12.4	11.0	12.0	11.8	122.8
累計平均	8.2	14.6	19.8	28.0	36.8	46.6	61.4	75.6	88.0	99.0	111.0	122.8	

(5) 都道府県別死者数

12月中は埼玉県が22人で最も多く、次いで神奈川県が20人、千葉県が17人、北海道、愛知は13人で4位となっている。

12月末は神奈川県が139人で最も多く、次いで東京都が134人、北海道が129人で3位となっている。

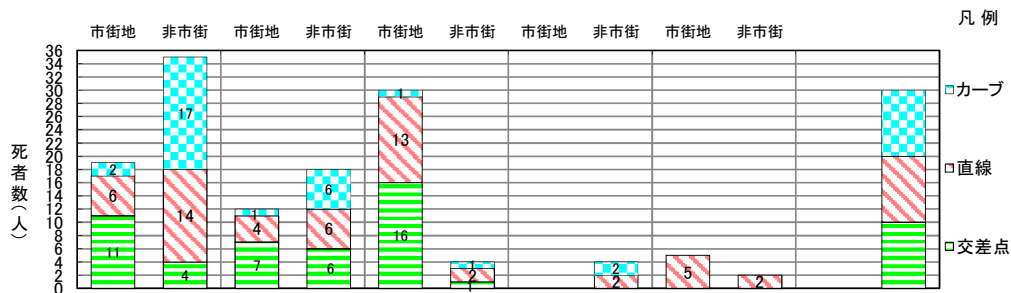
区分\都道府県	埼玉	神奈川	千葉	北海道	愛知	兵庫	静岡	東京	福岡	群馬	全国
12月中死者数	22	20	17	13	13	12	12	11	11	10	290
ワースト順位	1	2	3	4	4	6	6	8	8	10	—
前年比	6	7	7	0	-2	0	-1	-5	3	5	3
増減率(%)	37.5	53.8	70.0	0.0	-13.3	0.0	-7.7	-31.3	37.5	100.0	1.0

区分\都道府県	神奈川	東京	北海道	埼玉	千葉	大阪	愛知	兵庫	福岡	茨城	全国
12月末死者数	139	134	129	125	122	120	112	98	85	82	2,547
ワースト順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	9	—
前年比	30	-12	25	12	-9	-7	-29	-11	-6	-12	-116
増減率(%)	27.5	-8.2	24.0	10.6	-6.9	-5.5	-20.6	-10.1	-6.6	-12.8	-4.4

3 12月末の死亡事故の特徴

(1) 道路別

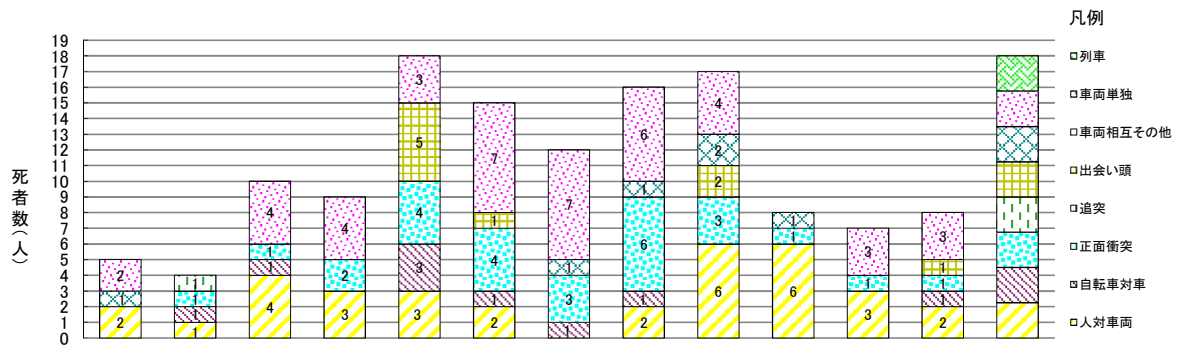
- 国道が54人(41.9%)、市町村道が34人(26.4%)、道道が30人(23.3%)。
- ・ 国道は、非市街地カーブが17人(31.5%)、非市街地直線が14人(25.9%)
  - ・ 市町村道は、市街地交差点が16人(47.1%)、市街地直線が13人(38.2%)
  - ・ 道道は、市街地交差点7人(23.3%)、非市街地交差点、非市街地直線、非市街地カーブが各々6人(20.0%)



区分\道路別	国 道	道 道	市町村道	高速道路	その他の道路	計
死 者 数	54	30	34	4	7	129
構 成 率 (%)	41.9	23.3	26.4	3.1	5.4	100.0
過去5年構成率	38.9	23.8	29.6	2.1	5.5	100.0

(2) 時間別

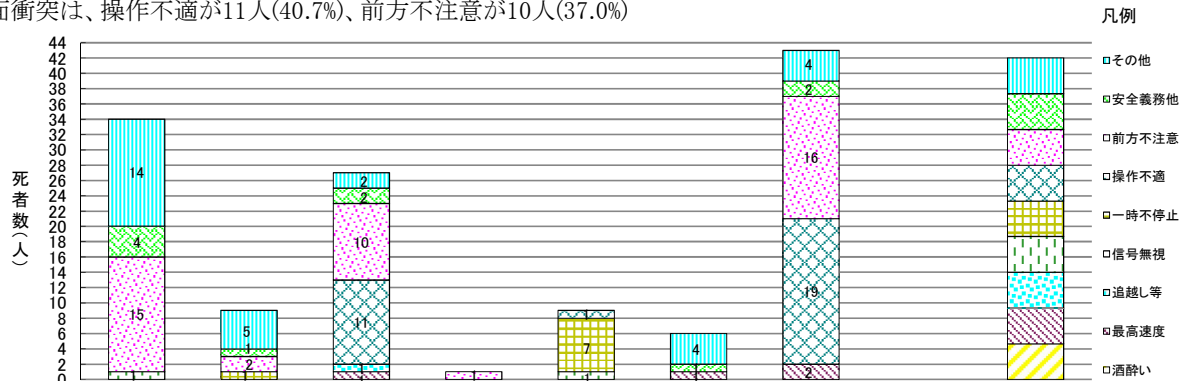
- 8～10時が18人(14.0%)、16～18時が17人(13.2%)となっている。
- ・ 8～10時は、出会い頭が5人(27.8%)、正面衝突が4人(22.2%)
  - ・ 16～18時は、人対車両が6人(35.3%)、車両単独が4人(23.5%)



区分\時間別	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	計
死 者 数	5	4	10	9	18	15	12	16	17	8	7	8	129
構 成 率 (%)	3.9	3.1	7.8	7.0	14.0	11.6	9.3	12.4	13.2	6.2	5.4	6.2	100.0
過去5年構成率	3.6	2.6	3.9	7.3	10.7	13.5	12.7	12.7	12.7	9.0	6.7	4.6	100.0

(3) 事故類型別

- 車両単独が43人(33.3%)、人対車両が34人(26.4%)、正面衝突が27人(20.9%)となっている。
- ・ 車両単独は、操作不適が19人(44.2%)、前方不注意が16人(37.2%)
  - ・ 人対車両は、前方不注意が15人(44.1%)、その他(歩行者妨害が含まれる)が14人(41.2%)
  - ・ 正面衝突は、操作不適が11人(40.7%)、前方不注意が10人(37.0%)



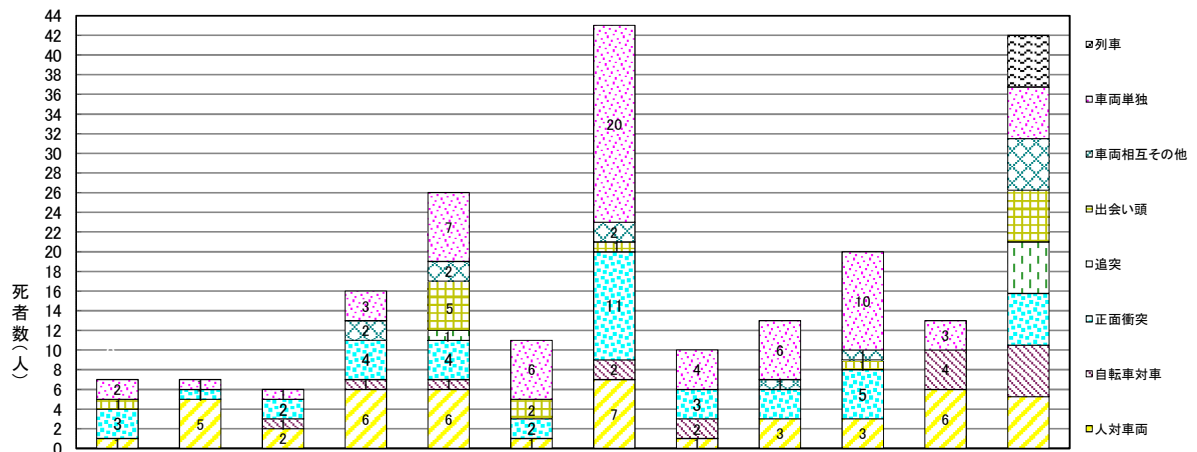
類型別	人対車両	自転車対車	車 両 相 互				車両単独	列 車	計
区 分 \			正面衝突	追 突	出会い頭	その他			
死 者 数	34	9	27	1	9	6	43		129
構 成 率 (%)	26.4	7.0	20.9	0.8	7.0	4.7	33.3		100.0
過去5年構成率	31.1	5.2	18.2	2.3	8.5	3.3	30.9	0.5	100.0

#### (4) 第一当事者の年齢層別:

高齢運転者が43人(33.3%)、50歳代の運転者が26人(20.2%)となっている。

- ・ 高齢運転者は、車両単独が20人(46.5%)、正面衝突が11人(25.6%)
- ・ 50歳代の運転者は、車両単独が7人(26.9%)、人対車両が6人(23.1%)

凡例



区分\年齢別	25歳未満	25～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	高齢者	65～69歳	70～74歳	75歳以上	歩行者等・不明	計
死者数	7	7	6	16	26	11	43	10	13	20	13	129
構成率(%)	5.4	5.4	4.7	12.4	20.2	8.5	33.3	7.8	10.1	15.5	10.1	100.0
過去5年構成率	9.1	4.1	7.8	17.4	14.8	9.0	32.7	9.4	9.4	13.8	5.0	100.0

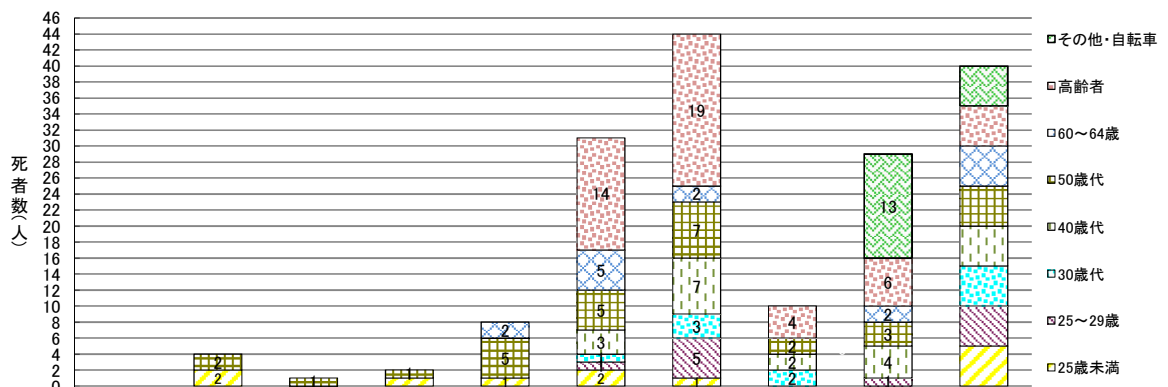
構成率は全死者に対する割合

#### (5) 第一当事者の違反

前方不注意によるものが44人(34.1%)、操作不適によるものが31人(24.0%)となっている。

- ・ 前方不注意は、高齢運転者による死者が19人(43.2%)、40歳代、50歳代運転者による死者が各々7人(15.9%)
- ・ 操作不適は、高齢運転者による死者が14人(45.2%)、50歳代、60～64歳の運転手による死者が各々5人(16.1%)

凡例



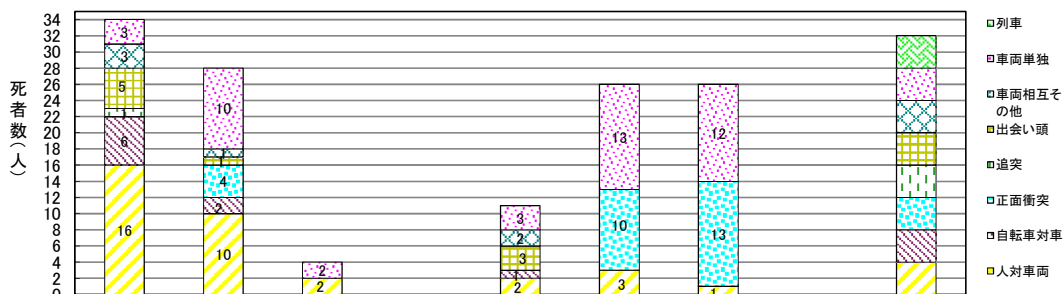
区分\原因別	酒酔い	最高速度	追越し等	信号無視	一時不停止	安全運転義務違反			その他	計
						操作不適	前方不注意	その他		
死者数		4	1	2	8	31	44	10	29	129
構成率(%)		3.1	0.8	1.6	6.2	24.0	34.1	7.8	22.5	100.0
過去5年構成率	1.8	11.6	2.3	3.7	4.2	11.2	32.2	10.7	22.1	100.0

#### (6) 地形・道路形状別

市街地交差点が34人(26.4%)、市街地直線が28人(21.7%)となっている。

- ・ 市街地交差点は、人対車両が16人(47.1%)、自転車対車が6人(17.6%)
- ・ 市街地直線は、人対車両、車両単独が各々10人(35.7%)

凡例



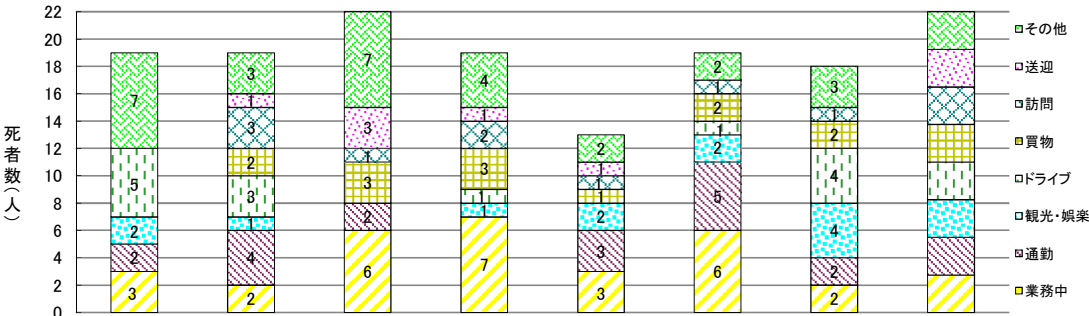
地形道路形状別	市街地				非市街地				計
	交差点	直線	カーブ	小計	交差点	直線	カーブ	小計	
死者数	34	28	4	66	11	26	26	63	129
構成率(%)	26.4	21.7	3.1	51.2	8.5	20.2	20.2	48.8	100.0
過去5年構成率	32.7	13.8	3.9	50.5	6.5	23.8	19.2	49.5	100.0

(7) 曜日別

火曜日が22人(17.1%)、日曜日、月曜日、水曜日、金曜日が各々19人(14.7%)となっている。

- ・火曜日は、業務中が6人(27.3%)、買物、送迎が各々3人(13.6%)
- ・日曜日は、ドライブが5人(26.3%)、業務中が3人(15.8%)
- ・月曜日は、通勤が4人(21.1%)、ドライブ、訪問が各々3人(15.8%)
- ・水曜日は、業務中が7人(36.8%)、買物が3人(15.8%)
- ・金曜日は、業務中が6人(31.6%)、通勤が5人(26.3%)

凡例



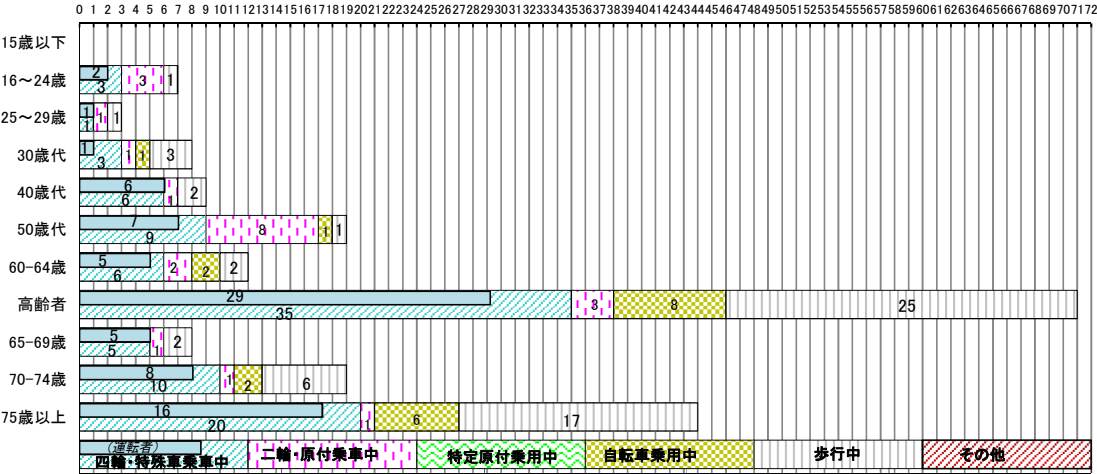
区分\曜日別	日	月	火	水	木	金	土	計
死者数	19	19	22	19	13	19	18	129
構成率(%)	14.7	14.7	17.1	14.7	10.1	14.7	14.0	100.0
過去5年構成率	18.1	13.8	14.2	12.7	14.3	13.0	13.8	100.0

(8) 状態別・年齢層別

年齢層別死者数では、高齢者の死者数が71人(55.0%)、次いで50歳代の死者が19人(14.7%)となっている。

四輪乗車中の死者数が63人(48.8%)、次いで歩行中の死者数が35人(27.1%)となっている。

死者数(人)



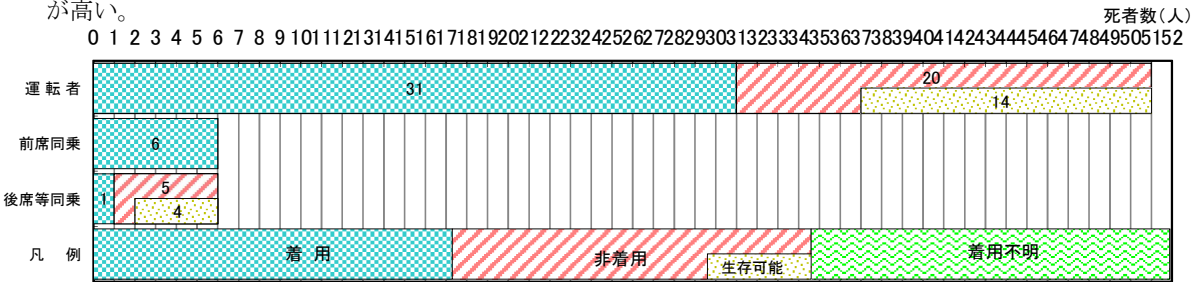
状態別 年齢層別\	四輪 乗車中 (特殊車を含む)	二輪 乗車中 (一般原付を含む)	特定原付 乗車中	自転車 乗車中	歩行中	その他	計	構成率	5年構成率
15歳以下 死者数									2.3
16~24歳 死者数	3	3			1		7	5.4	7.0
25~29歳 死者数	1	1			1		3	2.3	2.6
30歳代 死者数	3	1		1	3		8	6.2	4.9
40歳代 死者数	6	1			2		9	7.0	9.9
50歳代 死者数	9	8		1	1		19	14.7	13.0
60~64歳 死者数	6	2		2	2		12	9.3	7.0
高齢者 死者数	35	3		8	25		71	55.0	53.3
65~69歳 死者数	5	1			2		8	6.2	8.5
70~74歳 死者数	10	1		2	6		19	14.7	11.9
75歳以上 死者数	20	1		6	17		44	34.1	32.9
計 死者数	63	19		12	35		129	100.0	
計 構成率	48.8	14.7		9.3	27.1		100.0	—	—
計 過去5年構成率	48.0	13.5		6.5	31.6	0.3	100.0	—	—

注 高齢者の内訳の構成率は全死者に対する割合。

(9) シートベルト着用状況別

ア 乗車区分別

四輪乗車中の死者63人中、シートベルト非着用者は25人(39.7%)となっている。  
非着用者の25人のうち18人(72.0%)は、車両の破損状況等から見て、シートベルトを着用していれば生存していた可能性が高い。



区分	四輪乗車中等	着用					非着用					着用不明
		計	運転者	同乗者(助手席)	同乗者(後部席)	計	運転者	生存可能	同乗者(助手席)	同乗者(後部席)	計	
令和7年	63	38	31	6	1	25	20	14		5	4	
構成率(%)	100.0	60.3	81.6	15.8	2.6	39.7	80.0	70.0		20.0	80.0	

イ 年齢層別

シートベルト非着用者を年齢層別にみると、高齢者が17人(68.0%)となっている。

区分\年齢別	25歳未満	25～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	高齢者	65～69歳	70～74歳	75歳以上	その他・不明	計
シートベルト着用	1	1	2	5	8	3	18	3	7	8		38
構成率(%)	2.6	2.6	5.3	13.2	21.1	7.9	47.4	7.9	18.4	21.1		100.0
シートベルト非着用	2		1	1	1	3	17	2	3	12		25
構成率(%)	8.0		4.0	4.0	4.0	12.0	68.0	8.0	12.0	48.0		100.0

注 構成率は区分別の合計数に対する割合。  
高齢者の内訳の構成率は合計数に対する割合。

ウ 損傷加害部位別

シートベルト非着用者25人の損傷加害部位をみるとハンドルが7人(28.0%)、ドア・窓が5人(20.0%)となっている。

区分\部位別	車外放出	車外他	ハンドル	Fガラス	計器盤	ドア・窓	柱	天井	座席	室内他	シートベルト	他・不明	計
シートベルト着用		1	6	3	1	5			6	4	10	2	38
構成率(%)		2.6	15.8	7.9	2.6	13.2			15.8	10.5	26.3	5.3	100.0
シートベルト非着用	2	1	7	1		5		2	2	2		3	25
構成率(%)	8.0	4.0	28.0	4.0		20.0		8.0	8.0	8.0		12.0	100.0
運転者	2	1	7	1		3		1	2			3	20
構成率(%)	8.0	4.0	28.0	4.0		12.0		4.0	8.0			12.0	80.0
同乗者						2		1		2			5
構成率(%)						8.0		4.0		8.0			20.0

注 構成率は区分別の合計数に対する割合。  
但し、ベルト非着用の運転同乗者別の構成率は、ベルト非着用の合計数に対する割合。

4 冬型交通死亡事故の発生状況(計上月基準)

冬型事故の令和6年度及び7年度(ここでは令和6年11月～令和7年12月)の計上は次のとおり。

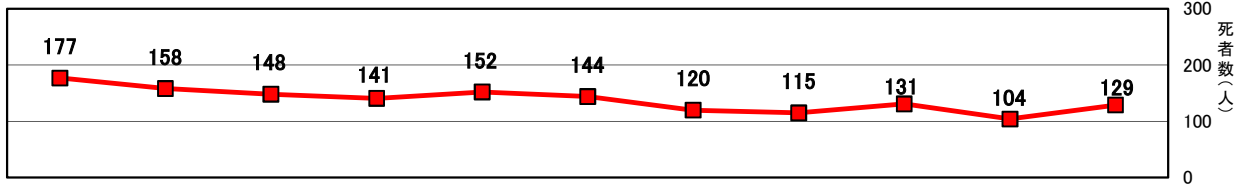
		(死者数 人)					
年度区分		死 者 数					
		11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度	死亡事故	13	13				26
	冬型事故	3	5				8
	スリップ	3	5				8
	視界不良						
	わだち						
	その他						
令和6年度	死亡事故	6	13	16	9	7	51
	冬型事故	1	5	2	5	2	15
	スリップ	1	5	2	4	2	14
	視界不良						
	わだち				1		1
	その他						



## 5 過去10年間の推移（各年12月末死者数）

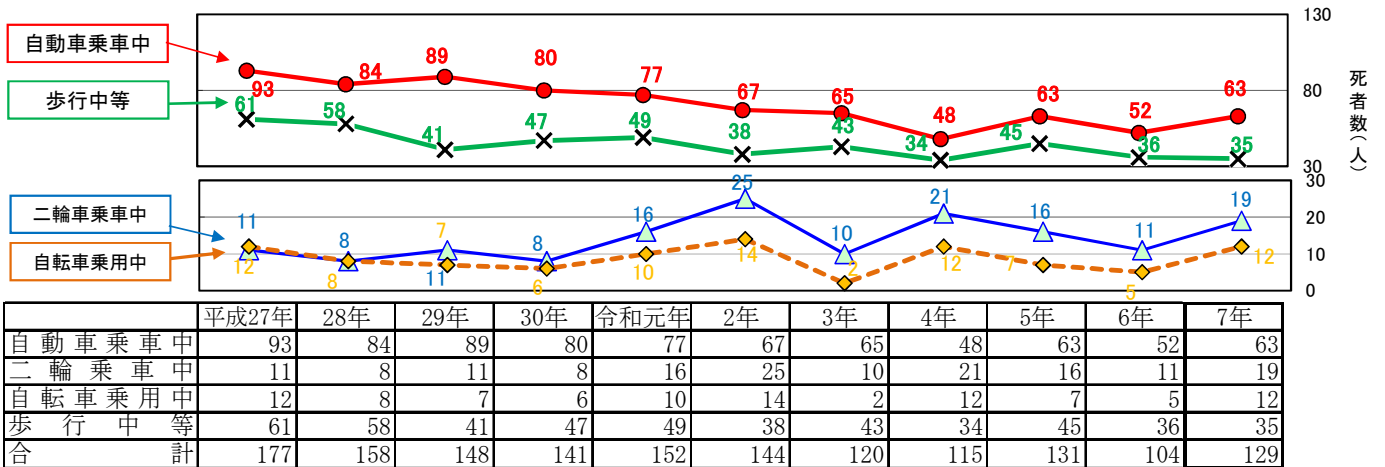
### (1) 死者数の推移

平成27年以降は、長期的に減少傾向で推移していたが、令和7年は前年より25人増加した。



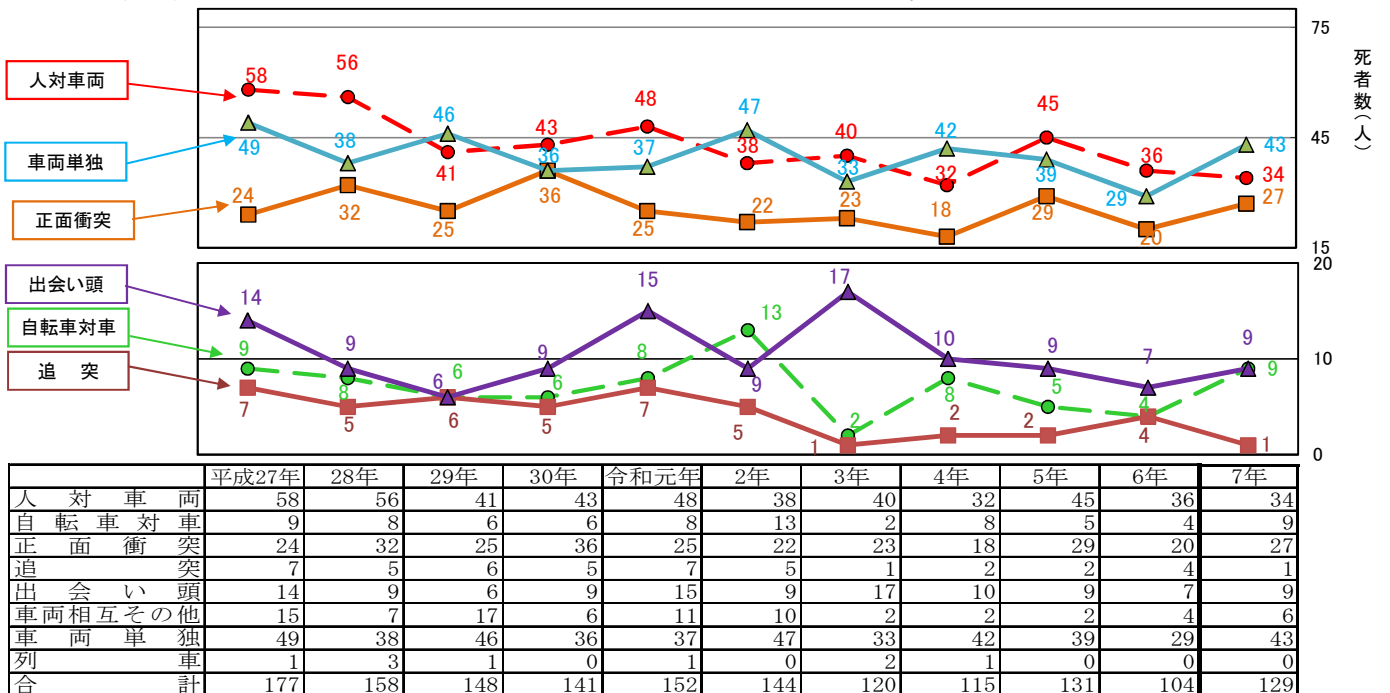
### (2) 状態別

- 自動車乗車中（二輪を除く）は、減少傾向であったが、令和7年は前年比+11人の63人となっている。
- 歩行中等は、増減を繰り返しながらも減少傾向推移し、令和7年は前年比-1人の35人となっている。
- 二輪乗車中は、令和6年は11人、令和7年は前年比+8人の19人となっている。
- 自転車乗用中は、令和6年は5人、令和7年は前年比+7人の12人となっている。



### (3) 事故類型別

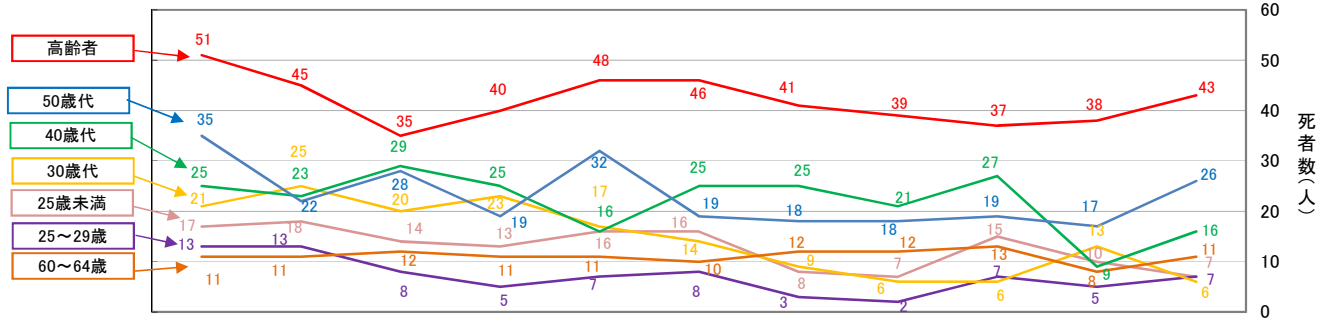
- 人対車両は、増減を繰り返しながらも減少傾向で推移し、令和7年は34人で前年比-2人となっている。
- 車両単独は、おおそ40人前後で推移し、令和6年は29人まで減少したが令和7年は43人と前年比+14人と増加した。
- 正面衝突は、おおそ25人前後で推移し令和7年は+2人の増加の27人となっている。
- 出会い頭は、令和3年が17人で最も多く、令和7年は前年比+2人で9人となっている。
- 自転車対車は、おおそ7人前後で令和7年は9人となっている。
- 追突は、直近5年では平均約3人と過去10年の傾向をみても低水準となっている。





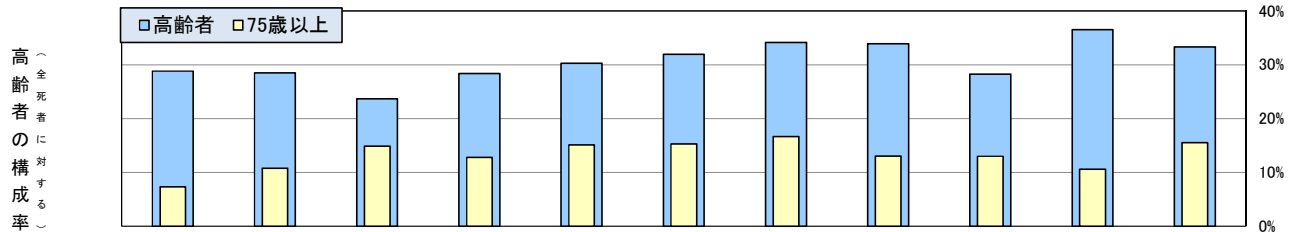
#### (4) 第一当事者年齢層別

過去10年間の傾向から見ると、高齢者が常に大きな割合を占め、他の年代については年毎のばらつき大きい。



	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
25歳未満	17	18	14	13	16	16	8	7	15	10	7
25～29歳	13	13	8	5	7	8	3	2	7	5	7
30歳代	21	25	20	23	17	14	9	6	6	13	6
40歳代	25	23	29	25	16	25	25	21	27	9	16
50歳代	35	22	28	19	32	19	18	18	19	17	26
60～64歳	11	11	12	11	11	10	12	12	13	8	11
高齢者	51	45	35	40	46	46	41	39	37	38	43
75歳以上	(13)	(17)	(22)	(18)	(23)	(22)	(20)	(15)	(17)	(11)	(20)
歩行者自転車等	4	1	2	5	7	6	4	10	7	4	13
合計	177	158	148	141	152	144	120	115	131	104	129

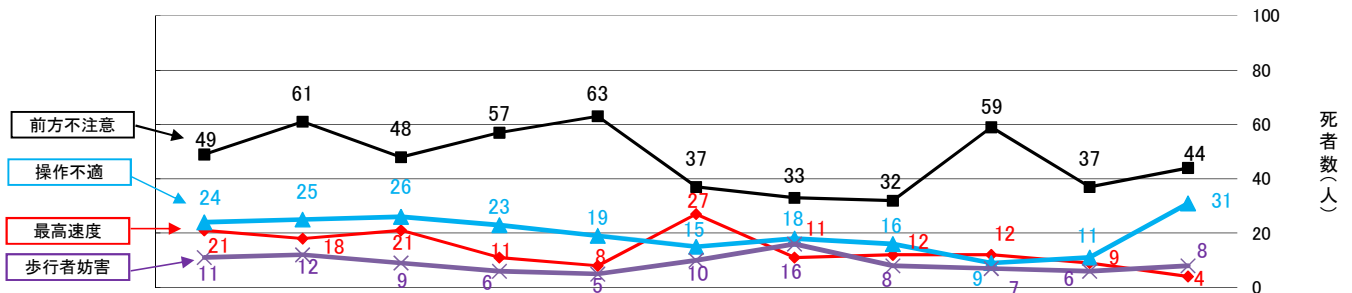
1 当高齢運転者による死者数を構成率でみると令和元年以降、令和5年以外常に30%を超えている。75歳以上はおおよそ過去10年では平成28年以降全て10%を超えている。



	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
高齢者	28.8%	28.5%	23.6%	28.4%	30.3%	31.9%	34.2%	33.9%	28.2%	36.5%	33.3%
75歳以上	7.3%	10.8%	14.9%	12.8%	15.1%	15.3%	16.7%	13.0%	13.0%	10.6%	15.5%

#### (5) 主な違反(原因)別

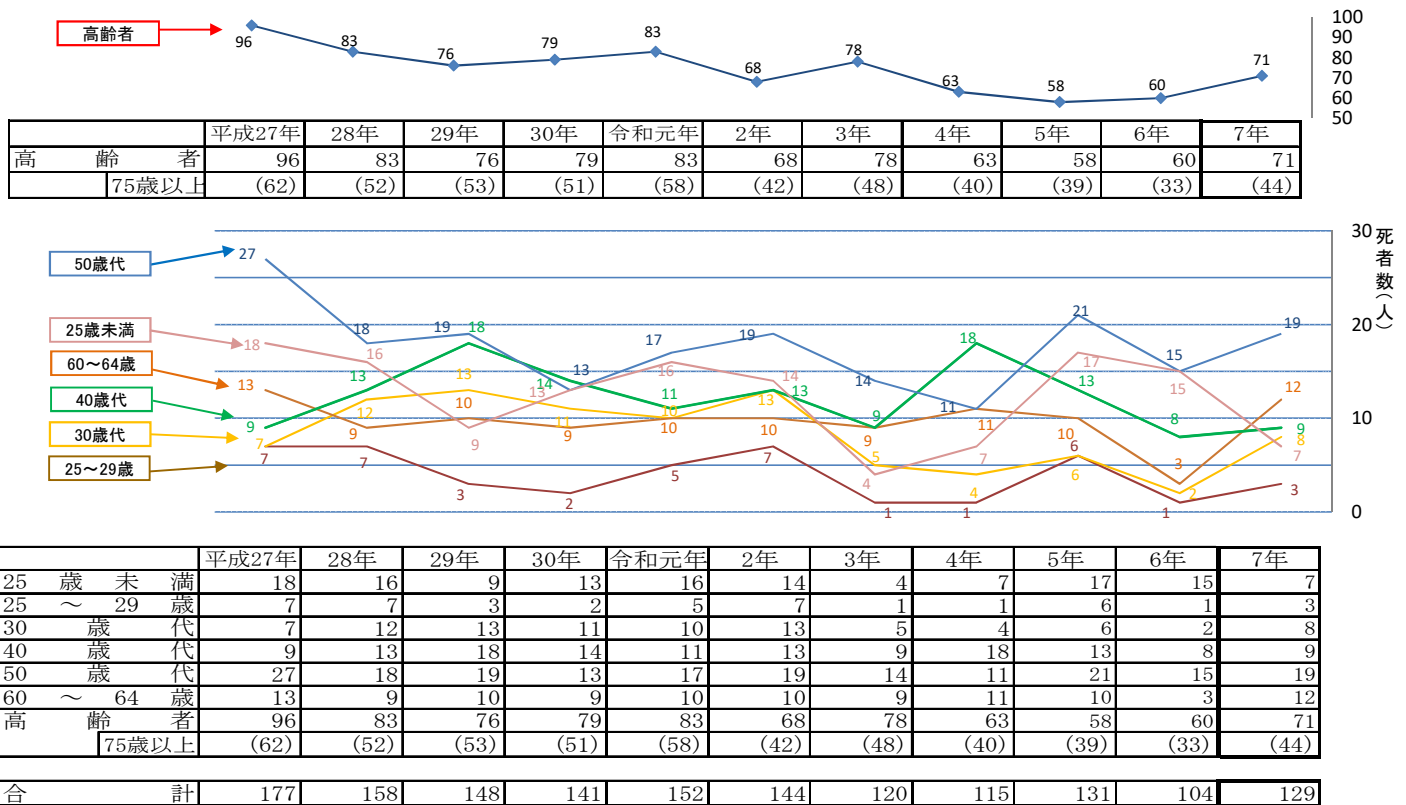
- 前方不注意は、令和5年に一時的に増加し、その後40人前後で推移している。
  - 操作不適は、長期的な減少傾向であったが、令和7年は+20人で31人と増加した。
  - 最高速度は、令和2年に大幅に増加したが、その後は、10人前後で推移していたが令和7年は4人に減少した。
  - 歩行者妨害は、令和3年は16人となったが、その後は、10人以下で推移している。
- ※記事及びグラフは主なものを記載しています。



	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
酒酔い	5	0	0	0	0	1	1	0	3	6	0
最高速度	21	18	21	11	8	27	11	12	12	9	4
追越、通行区分	1	5	1	1	3	6	3	3	2	0	1
歩行者妨害	11	12	9	6	5	10	16	8	7	6	8
信号無視	5	4	3	1	7	3	7	4	4	5	2
一時不停止	12	4	3	7	6	7	6	3	5	5	8
過労運転	0	0	1	0	0	0	3	2	0	3	1
操作不適	24	25	26	23	19	15	18	16	9	11	31
前方不注意	49	61	48	57	63	37	33	32	59	37	44
動静不注意	4	1	4	0	2	0	0	2	2	2	2
安全不確認	7	5	7	5	3	3	5	5	8	3	4
安義その他	9	9	8	6	8	12	3	8	8	5	4
その他	26	13	15	19	21	17	10	11	5	8	7
歩行者自転車	3	1	2	5	7	6	4	9	7	4	13
合計	177	158	148	141	152	144	120	115	131	104	129

# (6) 死者の年齢層別

令和3年以降、高齢者の死者数は減少傾向にあったが令和7年は増加に転じた。  
他の年代については、25歳以下及び50歳代の死者が多い年が散見される。



高齢者(75歳以上を含む)の死者数の構成率は、50%を下回ったのは令和2年と5年であり、全体として常に高水準にある。

